

参 考 資 料

- 1 整備の趣旨・目的
- 2 施設概要
- 3 沿革
- 4 組織
- 5 平成28年度 人と防災未来センター特別会計収支予算書
- 6 資料室のあらまし
 - (1) 資料室の概要
 - (2) 震災資料の収集・保存事業の経緯
 - (3) 資料室受け入れ資料点数等
 - (4) 震災資料収集・公開の流れと公開形態別資料点数
- 7 新聞記事がとりあげた人と防災未来センター
- 8 研修カリキュラム表
- 9 センター刊行物

参考資料 1

整備の趣旨・目的

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センターは、わが国で初めて社会経済的な諸機能が高度に集積する大都市を直撃した直下型地震である阪神・淡路大震災の教訓を後世に残し、震災とその復興過程から得られた知識や知恵を世界に情報発信することによって、世界の災害対策に生かそうという「阪神・淡路大震災メモリアルセンター構想」がその開設の端緒となっている。

震災があった1995年の10月、政府の「阪神・淡路復興委員会」が、復興特定事業のうち極めて意義のあるものとして阪神・淡路大震災記念プロジェクトを提言。そして、国、県、神戸市、民間で同プロジェクト検討委員会が設置され、その後に設立された（財）阪神・淡路大震災記念協会（理事長＝石原信雄・地方自治研究機構理事長（設立当時））で、学者、民間団体代表、行政代表で構成する同センター基本構想検討委員会を設置、1999年5月26日に基本構想（基本的考え方）が公表された。さらに6月には、有識者、行政などによる「阪神・淡路大震災メモリアルセンター構想推進協議会」（会長＝新野幸次郎・神戸都市問題研究所長）を設置し、「阪神・淡路大震災メモリアルセンター整備構想」を策定した。

同年12月、国の1999年度第2次補正予算で、メモリアルセンター施設整備費約60億円の2分の1にあたる約30億円が国庫補助金として予算措置され、2000年度以降の各年度においても、運営費補助が計上されることとなった。

さらに、政府の「阪神・淡路復興対策本部」の最後の会合が、翌2000年2月22日に開かれ、同センターの整備事業が復興特定事業に追加選定された。

「阪神・淡路大震災メモリアルセンター基本構想（基本的考え方）」によると、同センター構想は「人類史上初めての高齢社会下の大都市直下型地震による大災害であった阪神・淡路大震災により、我々は生命の尊厳やともに生きることの重要性、近代都市の脆弱性など、人類が営々と築き上げてきた20世紀文明に対する反省と教訓を得た」との認識を基に、「はからずも露呈した近代都市や近代文明の災害に対する脆弱さからは、『人と自然との共生』が、また復興過程でコミュニティやボランティアが果たした役割の大きさからは『人と人との共生』が、それぞれ重要な概念として認識されることになった。わが国は地震列島であり、将来、再び大地震が都市を襲う可能性を多分に有しており、震災から得られた反省と教訓を生かし、世界中で今後起こり得る同様の災害の防災と、それからの復旧・復興に貢献する義務がある。阪神・淡路地域こそ、世界における震災復興のフロンティアでありモデルであるとの自覚のもと、来るべき21世紀の世界に貢献し得る役割を担おう」との趣旨でまとめられた。

2000年度には、「展示・交流検討委員会」、「人材育成等検討委員会」を設置し、展示内容や、調査研究活動、人材育成等のソフトについて、各界の代表者等からの意見等をふまえて具体化に向けた検討を精力的に重ねていった。

さらに、「メモリアルセンターフォーラム」等の開催を通じて、一般県民等からの期待や意見についても把握し、委員会等での検討に供した。

そして、2001年1月に一期施設「防災未来館」の建築工事に着手し、翌2002年3月末に施設が完成し、4月21日に皇太子同妃両殿下をお迎えして、開館記念式典が執り行われ、4月27日から一般公開された。

さらに、2001年11月には二期施設「ひと未来館」の建築工事に着手し、2003年3月末



に施設が完成した。4月24日には、開館記念式典が防災担当大臣等のご参列のもと行われるとともに、翌25日には、「いのちの尊さと、ともに生きることの素晴らしさーひと未来館の展示がめざすものー」をテーマとした鼎談など開館記念イベントが開催された。

4月26日から一般に公開され、ここに阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センターはグランドオープンに至った。

震災から復興が進むなか、防災未来館の展示については、センター開設後の時間経過に伴う復興への新たな課題と情報の追記、防災・減災に関する情報発信の強化等が必要となったため、2005年9月に学識者等で構成する「人と防災未来センター展示検討委員会」を設置し、展示更新内容について検討を重ね、2006年7月に「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター展示検討報告書」をとりまとめた。

2007年には、その内容を踏まえて、一期施設「防災未来館」において展示のリニューアルを実施し、2008年1月9日から一般に公開した。

また、「ひと未来館」においては、阪神・淡路大震災の教訓としての「いのちの尊さ」や「共に生きることの大切さ」を伝える展示を行ってきたが、近年、体験型の環境学習機会や学習施設が充実されてきたことに加え、世界的に多発する大規模自然災害への対応が求められていること等から、2009年3月末をもってひと未来館としての展示を休止し、風水害に関する防災展示を充実する等の改修を経て、2010年1月8日から再オープンした。併せて、「防災未来館」を「西館」、また「ひと未来館」を「東館」と館の名称を変更したほか、入館料金体系を見直し、両館の一体的な展示運営を行っている。

また、震災20年を機に、震災の経験と教訓の継承、防災・減災情報の発信の拠点施設としてのシンボル性を高めるために、2015年3月27日から西館（北面、西面）で原則毎週金・土曜日にライトアップを始めた。

さらに2015年10月23日からは、西館（東面、南面）のライトアップを追加して、西館4面で毎日ライトアップを行っている。

参考資料 2

施設概要

1 施設概要

区 分	西館（旧防災未来館）	東館（旧ひと未来館）
施設概要	鉄骨造（制震構造） 地上 7 階、地下 1 階、塔屋 1 階 建面積：1,887.80 m ² 延面積：8,557.69 m ²	鉄骨造（制震構造） 地上 7 階、地下 1 階、塔屋 1 階 建面積：2,059.97 m ² 延面積：10,197.08 m ²
施設整備費	約 60 億円（国 1/2, 県 1/2）	約 61 億円（県 10/10）
整備スケジュール	平成 12 年 3 月～ 基本設計及び実施設計 平成 13 年 1 月 建築工事着工 平成 14 年 3 月 完成 4 月 27 日オープン 平成 19 年 12 月 29 日 展示改修のため休止 平成 20 年 1 月 9 日 リニューアルオープン	平成 12 年 9 月～ 基本設計及び実施設計 平成 13 年 11 月 建築工事着工 平成 15 年 3 月 完成 4 月 26 日オープン 平成 21 年 4 月 1 日 展示運営を休止 平成 22 年 1 月 8 日 再オープン

2 建物内概念図（平成 29 年 3 月 31 日現在）

西 館		東 館	
	機械室	収蔵庫	機 械 室
7F			
6F	阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 事業部（事業課・普及課） 研究部		（公財）ひょうご震災記念21世紀研究機構
5F	事業部（運営課） 資料室		アジア防災センター 国際エメックスセンター 国際防災復興協力機構 国連国際防災戦略事務局駐日事務所 国連人道問題調整事務所神戸事務所 瀬戸内海環境保全協会 地球環境戦略研究機関関西研究センター
4F	展示部門（震災追体験フロア）		アジア太平洋地球変動研究ネットワークセンター 兵庫県立大学防災教育センター
3F	展示部門（震災の記憶フロア）		展示部門（水と減災について学ぶフロア） 多目的スペース
2F	展示部門 （防災・減災体験フロア）		通路
1F	総合案内、ロビー、ガイダンスルーム 等		レストラン・ ミュージアム ショップ
			展示部門 （こころのシアター）

参考資料 3

沿革

< 1999 年 (平成 11 年) >

- 2.17 (財) 阪神・淡路大震災記念協会に「阪神・淡路大震災メモリアルセンター基本構想検討委員会」を設置
- 5.26 阪神・淡路大震災メモリアルセンター基本構想のとりまとめ・公表
- 6. 2 阪神・淡路大震災メモリアルセンター構想推進協議会の設立
- 6.12 阪神・淡路大震災メモリアルセンター構想推進協議会専門委員会の開催
- 6.28 阪神・淡路大震災メモリアルセンター整備構想のとりまとめ・公表
- 11.12 国土庁長官が記者会見で「メモリアルセンターの施設整備費について 11 年度補正において所要の補助金を計上する。運営費についても平成 12 年度以降の各年度において所要の補助金を計上する」旨発表
- 12. 9 国の平成 11 年度第 2 次補正予算 (11 月補正) が成立。メモリアルセンター施設整備費 (約 60 億円)、うち国庫補助金 (約 30 億円) が予算措置
- 12.24 メモリアルセンター運営費補助金 (12 年度分 63 百万円) が盛り込まれた国の平成 12 年度当初予算が閣議決定

< 2000 年 (平成 12 年) >

- 1.29 「阪神・淡路大震災メモリアルセンター設計プロポーザル選考委員会」の設置。第 1 回委員会を開催し、選考基準、プロポーザル作成要領を検討
- 2.22 「阪神・淡路大震災復興対策本部」最終会合でセンター整備事業が復興特定事業に追加選定
- 2.26 第 2 回選考委員会において、最適設計者を選定
- 3.22 1 期設計委託契約締結
- 5. 8 第 1 回「展示・交流検討委員会」開催
- 5.19 第 2 回「展示・交流検討委員会」開催
- 5.26 第 1 回「人材育成等検討委員会ワーキング会議」開催
- 5.27 第 2 回「人材育成等検討委員会ワーキング会議」開催
- 6.17 第 3 回「展示・交流検討委員会」開催
- 8.28 第 4 回「展示・交流検討委員会」開催
- 9.18 ヘルスケアパーク構想のうち県立のミュージアム部分をメモリアルセンター 2 期として整備することを決定
- 9.29 2 期設計委託契約締結
- 10.14 第 1 回メモリアルセンターフォーラム開催
- 10.27 第 5 回「展示・交流検討委員会」開催
- 12.12 第 3 回「人材育成等検討委員会ワーキング会議」開催
- 12.27 第 1 回「人材育成等検討委員会」開催

< 2001 年 (平成 13 年) >

- 1. 6 1 期建築工事安全祈願祭開催 (工事着工)
- 1.15 センター長に河田恵昭京都大学防災研究所巨大災害研究センター長・教授が内定、発表

- 2.19 第6回「展示・交流検討委員会」開催
- 4.28 第7回「展示・交流検討委員会」開催
- 10.10 2期建築工事発注
- 10.30 第1回人材育成カリキュラム等検討委員会開催
- 10.31 第1回名称募集審査委員会開催
- 11. 9 2期建築工事安全祈願祭開催
- 11.27 第2回名称募集審査委員会開催
- 12. 4 1期展示工事安全祈願祭開催
- 12.11 第1回展示監修者会議開催
- 12.19 第2回人材育成カリキュラム等検討委員会開催
- 12.19 2期展示製作委託発注

< 2002 年 (平成 14 年) >

- 1. 7 正式名称を「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」に決定、発表
- 1.21 第2回展示監修者会議開催
- 3.31 1期施設「防災未来館」完成
- 4.21 開設記念式典開催
- 4.23 開設記念シンポジウム開催
- 4.27 「防災未来館」展示一般公開

< 2003 年 (平成 15 年) >

- 3.31 2期施設「ひと未来館」完成
- 4.24 開設記念式典開催
- 4.25 開設記念イベント開催
- 4.26 「ひと未来館」展示一般公開

< 2007 年 (平成 19 年) >

- 12.29 「防災未来館」展示改修のため休止

< 2008 年 (平成 20 年) >

- 1. 8 「防災未来館」展示リニューアル記念式典
- 1. 9 「防災未来館」展示リニューアルオープン (一般公開)

< 2009 年 (平成 21 年) >

- 3.31 「ひと未来館」展示運営を休止

< 2010 年 (平成 22 年) >

- 1. 8 「ひと未来館」展示再オープン (一般公開)
併せて、館の名称について「防災未来館」を「西館」、「ひと未来館」を「東館」に変更、また入館料金体系を変更

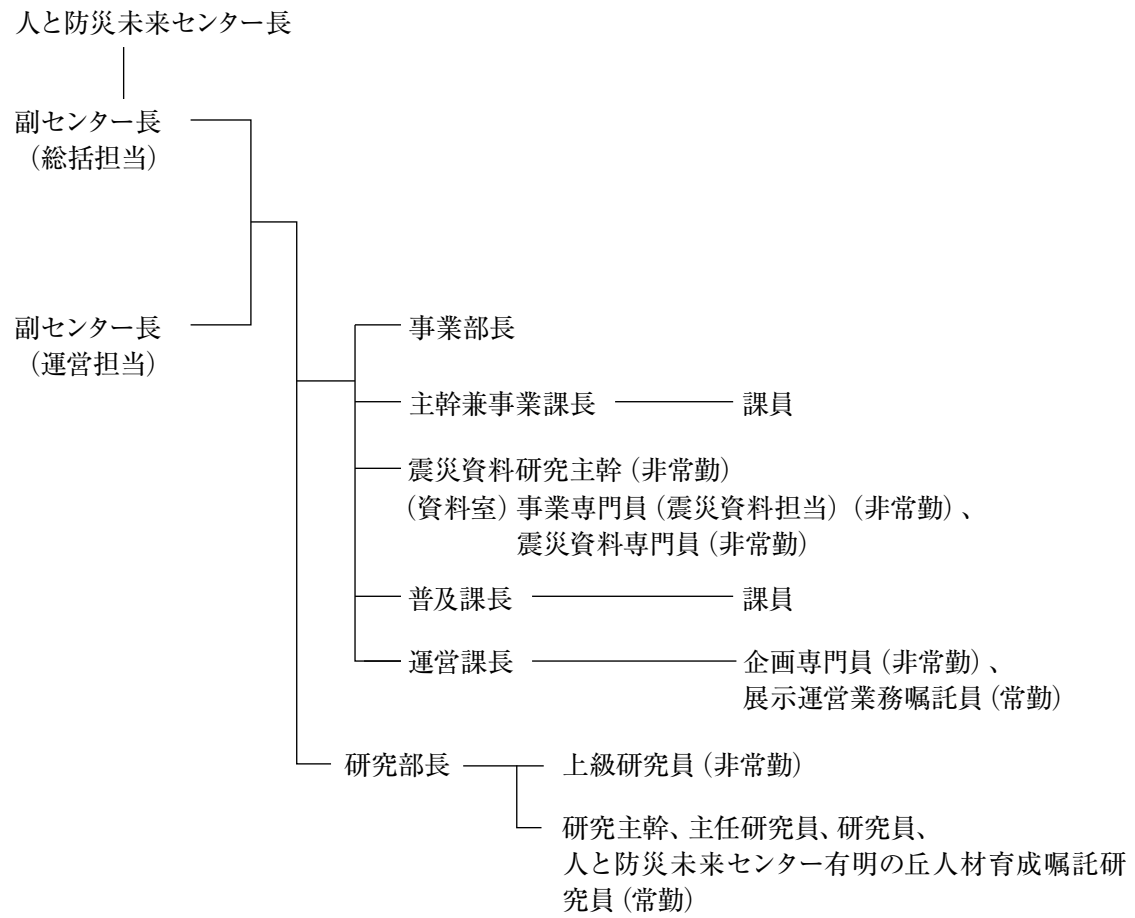
< 2015 年 (平成 27 年) >

- 3.27 西館 (北面、西面) で夜間ライトアップ開始 (原則金、土曜日)
- 10.23 西館 (東面、南面) を追加し、西館 4 面でライトアップを実施 (毎日)

参考資料 4

組織

(平成29年3月31日現在)



職員数 (単位：人)

所 属	職 員	非常勤職員	日々雇用職員	計
センター長・副センター長	2	1		3
事業部				
事業課	4	6	0	10
普及課	2	0	0	2
運営課	2	2	0	4
研究部	11	0	0	11
計	21	9	0	30

- ・ 事業部長は事業課職員に含む。
- ・ 震災資料研究主幹、事業専門員（震災資料担当）、震災資料専門員は事業課非常勤職員に含む。
- ・ 展示運營業務嘱託員は運営課職員に含む。
- ・ 運営課の企画専門員は運営課非常勤職員に含む。

- ・研究部には、人と防災未来センター有明の丘人材育成嘱託研究員を含み、上級研究員、研究調査員は除く。
- ・ひょうご震災記念 21 世紀研究機構管理部本務職員は除く。

参考資料5

平成28年度 人と防災未来センター特別会計収支予算書

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	予算額			備 考
	28 年度当初	27 年度当初	増 減	
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
(1) 事業収入	86,246	83,915	2,331	
① 入館料収入	(49,278)	(50,707)	(△ 1,429)	入館料収入見込の減
② 駐車場等収入	(36,968)	(33,208)	(3,760)	駐車場等収入見込の減
(2) 補助金等収入	721,947	708,780	13,167	
① 指定管理料収入	(571,725)	(554,714)	(17,011)	人件費及び事業費の増に伴う増
② 県交付金収入	(91,055)	(97,555)	(△ 6,500)	事業費の減に伴う減
③ 補助金等収入	(58,159)	(53,384)	(4,775)	科研費の増
④ 国等受託収入	(1,008)	(3,127)	(△ 2,119)	受託収入の減
(3) 雑収入	30,332	31,317	△ 985	
① 受取利息	(1)	(1)	(0)	
② 雑収入	(30,331)	(31,316)	(△ 985)	
事業活動収入計	838,525	824,012	14,513	
2 事業活動支出				
(1) 事業費支出	840,385	826,512	13,873	
① 施設運営等事業費支出	(524,337)	(507,481)	(16,856)	人件費及び事業費の増
② 研究調査等事業費支出	(153,590)	(153,590)	(0)	
③ センター利用事業費支出	(65,415)	(62,259)	(3,156)	事業費の減
④ 研究受託等事業費支出	(5,988)	(5,627)	(361)	
⑤ ひょうご安全の日関連事業費支出	(91,055)	(97,555)	(△ 6,500)	事業費の減
事業活動支出計	840,385	826,512	13,873	
事業活動収支差額	△ 1,860	△ 2,500	640	
II 投資活動収支の部				
1 投資活動収入	0	0	0	
投資活動収入計	0	0	0	
2 投資活動支出				
(1) 特定資産取得支出	1,000	1,000	0	
退職給付引当資産取得支出	(1,000)	(1,000)	(0)	
投資活動支出計	1,000	1,000	0	
投資活動収支差額	△ 1,000	△ 1,000	0	
当期収支差額	△ 2,860	△ 3,500	640	
前期繰越収支差額	14,767	13,047	1,720	
次期繰越収支差額	11,907	9,547	2,360	



参考資料 6 - (1)

資料室の概要

資料室では、阪神・淡路大震災に関連する一次資料（紙、モノ、写真、映像・音声）及び災害や防災に関する二次資料（図書、ビデオ、DVD など）を検索・閲覧できる。

（１）資料室の体制

平成 28 年度は震災資料研究主幹（牧紀男・京都大学防災研究所教授）のもと、震災資料（実物資料である一次資料、図書やビデオなどの二次資料）を担当する震災資料専門員 4 名により資料室の業務運営を行った。

（２）資料室の主な業務

- ① 震災資料の調査、収集、整理、保存
- ② 震災・防災およびその関連領域に関するレファレンス業務
- ③ 震災一次資料の閲覧申請、館外貸出等についての対応
- ④ 震災学習、防災教育に関するビデオ・DVD の貸出し
- ⑤ 震災、防災に関する情報発信
- ⑥ 他機関との連携

（３）資料室における資料の閲覧・複写および利用者サービス

① 資料の閲覧・複写

一次資料は、適切な温度・湿度のもとで管理する必要があるため、収蔵庫で保存している。来室者が閲覧を希望する場合、申請書類の提出に基づき資料専門員が出納する。

二次資料である図書、雑誌、ビデオ、CD-ROM、DVD などは開架式で自由に閲覧でき、資料室内コピー機で複写もできる（有料）。

② 利用者サービス

震災資料の受け入れ、資料の貸出しに関する相談を受け付けているほか、震災や防災に関する相談に対して、参考資料の提案も行っている。

（４）資料室の設備

① 閲覧スペース

閲覧席約 10 席、ソファ

② 震災資料検索用パソコン 2 台

・一次資料、二次資料のデータベース検索

一次資料については調査先に関するデータ（所在地、氏名など）やキーワードで、二次資料については書名、著者名、出版社名やキーワードでの検索する。

資料の検索はセンターホームページ（<http://lib.dri.ne.jp/search/index.asp>）でも可能である。

・神戸新聞記事データベース検索

阪神・淡路大震災以降の神戸新聞の記事（地方版を含む）の見出し・本文が閲覧できる。キーワード及び発行年月日で検索できる。



震災資料検索用パソコン

③ 資料閲覧用パソコン 3台

映像・音声資料の視聴や、以下の閲覧ができる。

- ・デジタル版 街の復興カルテ

被災地の復興の1年ごとの経過をパソコン上で閲覧できる。

- ・阪神・淡路大震災 犠牲者の記録

震災犠牲者聞き語り調査会が遺族への聞き取り結果をまとめた「犠牲者の記録」の一部を公開している。震災犠牲者ひとり一人の記録をPDFファイルで閲覧できる。

④ 映像上映モニター

所蔵する映像資料のなかから、震災の記録映像等を常時再生している。

野田北ふるさとネット・野田北部を記録する会制作、青池憲司監督

『野田北部鷹取の人びと』

野田北部を記録する会 製作

『市民が撮った震災映像アーカイブ 市民編』

神戸市広報課職員 松崎太亮 撮影

『フェニックスプラザミニシアター展示映像（英語版）』

阪神・淡路大震災復興支援館—フェニックスプラザ— 編

⑤ ぼうさいみらい子ども文庫

平成22年1月、阪神・淡路大震災15年にあたり、次代を担う子どもたちに震災の経験と教訓を伝えるため、国際ソロプチミスト神戸からの寄贈により、資料室内に開設した。主に児童向けの図書、ビデオ・DVDの閲覧ほか、防災を学ぶゲームも体験できる。図書やDVD、ゲーム等の資料は、現在も収集を継続している。

- 配架資料等（平成29年3月現在）

- ・図書（絵本） 約310点
- ・ビデオ等 約30点
- ・防災を学ぶゲーム、紙芝居、CD等



ぼうさいみらい子ども文庫

(5) 資料室における配布物

震災及び防災についてより多くの人々に発信するため、次の資料などを配布している。

- ・ 資料室パンフレット
- ・ 資料室ニュース
(センターホームページからダウンロード可能
http://www.dri.ne.jp/material/material_news)
- ・ 災害学習ノート
- ・ 「くらしと震災学習ノート」
- ・ 震災資料集 vol.1 『阪神・淡路大震災における住まいの再建 論説と資料』
- ・ 震災資料集 vol.2 『所蔵資料図録—暮らしのなかの震災資料—』
- ・ 防災関連イベントのチラシ等
- ・ 『阪神・淡路大震災復興誌』(財) 21 世紀ひようご創造協会、(財) 阪神・淡路大震災記念協会
(センターホームページから全 10 巻がダウンロード可能
http://www.dri.ne.jp/material/material_hanshinawaji)
- ・ 『「震災資料の分類・公開の基準研究会」報告書 ～阪神・淡路大震災関連資料の活用に向けて～』(財) 阪神・淡路大震災記念協会
(センターホームページからダウンロード可能
http://www.dri.ne.jp/material/material_reports)

震災資料の収集・保存事業の経緯

概略

阪神・淡路大震災の被害を伝える資料の収集は、平成7年10月から、兵庫県の委託を受けた(財)21世紀ひようご創造協会が「震災とその復興に関する資料・記録の収集・保存事業」として始めた。

平成10年4月以降は、(財)阪神・淡路大震災記念協会が引き継いで収集事業を続け、公開基準の検討を行った。

平成12年6月からは、兵庫県の「緊急地域雇用特別交付金事業」を用いた大規模な震災資料の調査事業が、2年にわたって行われた。延べ約450人の調査員が各種NPO等団体、復興公営住宅、学校などを訪ね、チラシ・ノート・写真・避難所が使用された物など、生の資料を集めた。(財)21世紀ひようご創造協会や(財)阪神・淡路大震災記念協会が収集したものを含め、平成13年度末までに約16万点の資料が収集された。

平成14年4月に開館した人と防災未来センターでは、こうして収集された資料を引き継ぎ、資料室において、一次資料として保存、公開、活用している。

年表

- 平成7年3月 阪神大震災地元NGO救援連絡会議に「震災・活動記録室」を設置。
- 5月 神戸大学附属図書館震災文庫が本格的に震災資料収集活動を開始。
兵庫県立図書館、神戸市立図書館でも、一次資料を含む震災資料の収集を開始。
自治体、図書館、史料保存団体の有志、歴史研究者などによる相互協力活動の開始。
- 10月 (財)21世紀ひようご創造協会が兵庫県の委託を受けて震災資料収集事業を開始。
- 平成8年12月 非常勤嘱託(3名)を雇用。旧避難所等を中心に調査。
- 平成10年4月 (財)阪神・淡路大震災記念協会が収集事業を引き継ぐ。事業の一つとして、「阪神・淡路大震災に係る既存情報の収集整理・保存」が位置づけられる。仮設住宅、ボランティアグループを中心に一次資料の調査。
- 6月 「震災資料の分類・公開基準研究会」設置(～平成12年度末)。
- 平成11年8月 「公開基準検討部会」設置(～平成12年度末)。
- 平成12年6月 「緊急地域雇用特別交付金事業」による大規模調査を実施(～平成13年度末)。
- 平成13年4月 「震災資料の保存・利用、及び活用方策」研究会設置(～平成13年度末)。
「震災資料の保存・利用、及び活用方策」検討部会設置(～平成13年度末)。
- 平成14年4月 阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」資料室が事業を引き継ぐ。
- 平成16年3月 「震災資料の公開等に関する検討委員会」設置(～平成16年度末)。

資料室受け入れ資料点数等

1 人と防災未来センター資料室所蔵資料の状況（平成 29 年 3 月末現在）

部門	件数名		総数	
二次資料	資料点数 (購入含む)	図 書	13,460 点	
		雑 誌	19,325 点	
		チラシ	1,852 点	
		映 像	947 点	
		その他	3,944 点	
		総 数	39,528 点	
	バーコード登録件数		13,076 件	
	購入件数		3,501 件	
	目次入力済件数		24,175 件	
	依頼状発送件数		※ 0 件	
礼 状 発 送 件 数		※ 18 件		
ビデオ貸出本数 (件数)		※ 216 本		
		※ 130 件		
一次資料	入力済 み件数	調 査 先 総 数		17,534 件
		資 料 提 供 件 数		5,032 件
		資料点数	映像・音声 (点数)	2,053 点
			紙 (点数)	179,511 点
			モノ (点数)	1,429 点
			写真 (点数)	6,108 点
				128,169 枚
		総点数		189,101 点
	資料提供件数 (データ未入力を含む)		※ 8 件	
	調査回数 (データ未入力を含む)		※ 6 回	
資料室全般	相談業務件数	全 体 数	※ 13 件	
		解 決	※ 13 件	
		未 解 決	※ 0 件	
		入力件数	2,171 件	
	資料閲覧申請件数	申請件数	※ 32 件	
		申請資料総点数	※ 669 点	
	資料室利用者数		※ 3,918 人	

- ・ ※印は平成 28 年度の総計
- ・ 無印は資料室開室後の累計（平成 29 年 3 月末現在の総数）

2 平成 28 年度資料室受け入れ二次資料点数

区分	平成 28 年度 資料室受け入れ二次資料点数	平成 28 年度末現在 二次資料点数 (累計)
図 書	188	13,460
雑 誌	227	19,325
チ ラ シ	75	1,852
映 像	13	947
そ の 他	58	3,944
総 数	561	39,528

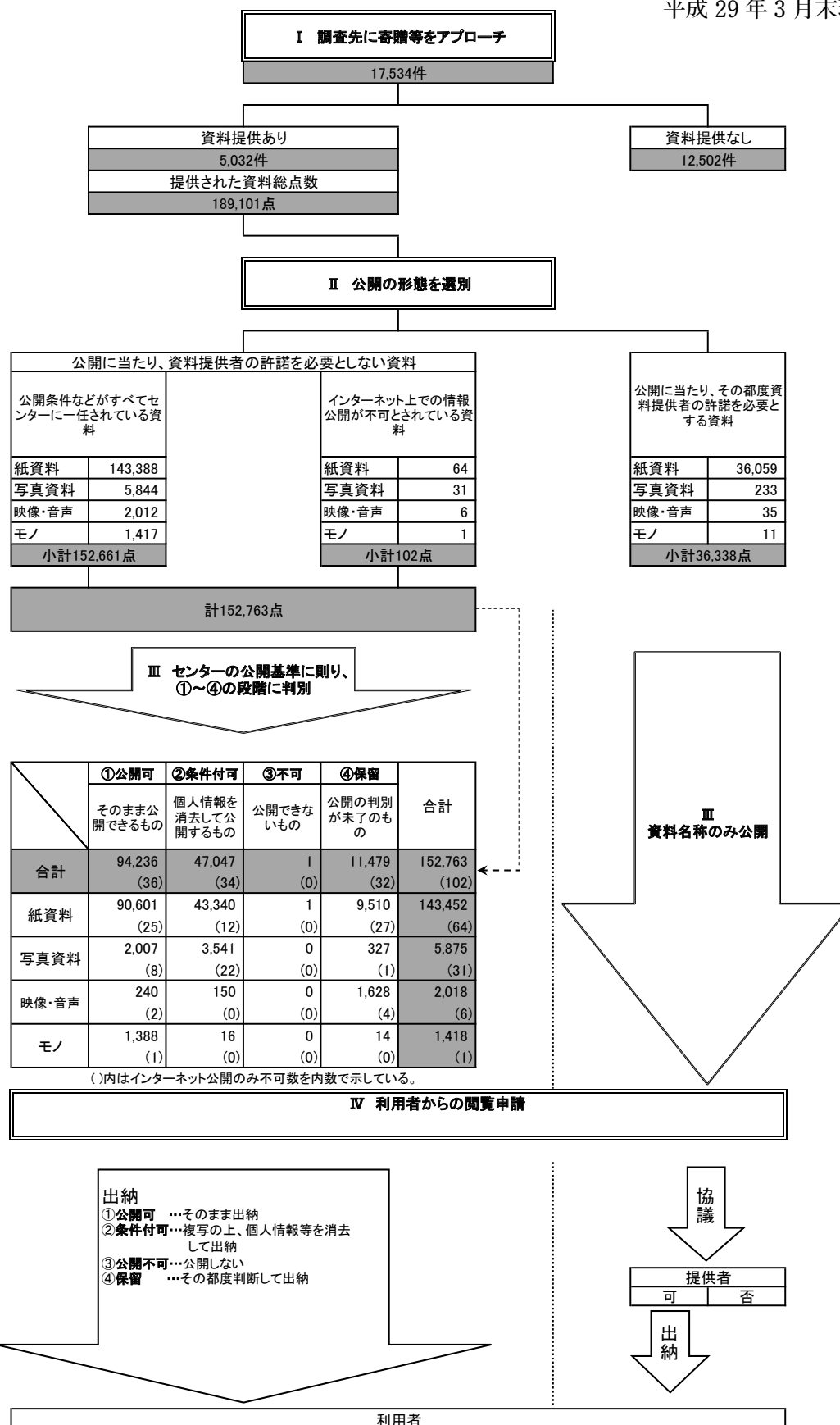
3 平成 28 年度資料室利用者数

(単位：人)

月	人数
4 月	282
5 月	329
6 月	256
7 月	332
8 月	681
9 月	284
10 月	270
11 月	348
12 月	217
1 月	374
2 月	263
3 月	282
合計	3,918

震災資料収集・公開の流れと公開形態別資料点数

平成 29 年 3 月末現在



参考資料 7

新聞記事がとりあげた人と防災未来センター

- ・記事抽出対象紙
朝日新聞、神戸新聞、産経新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞の計 6 紙。
神戸新聞以外はすべて大阪本社版を基本としている。
- ・記事抽出期間
平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日
- ・抽出方法
記事見出しあるいは記事本文に「人と防災未来センター」というキーワードを含むもの、センター関係者が取り上げられているものなど。

平成 28 年度センター関連記事の掲載回数

新聞名	掲載回数	掲載割合 (%)
読売新聞	67	20.6
朝日新聞	50	15.4
毎日新聞	73	22.5
神戸新聞	84	25.8
日本経済新聞	15	4.6
産経新聞	36	11.1
計	325	100.0

(参考) 掲載回数累計

新聞名	掲載回数	掲載割合 (%)
読売新聞	556	16.7
朝日新聞	461	13.9
毎日新聞	650	19.6
神戸新聞	1174	35.4
日本経済新聞	128	3.9
産経新聞	348	10.5
計	3317	100.0

- ・主な記事内容
 - ①イベント
例：阪神・淡路大震災 22 年関連事業、夏休み防災未来学校、災害被災地派遣、災害対策専門研修、センター企画展など
 - ②人物
例：センター長、副センター長、上級研究員、主任研究員、研究員、震災資料専門員のコメントなど
 - ③各新聞の掲載記事の例
 - ・センター研究員関係
「沼島小学校生 立体地図に挑戦（人と防災未来センター研究員が授業）」『朝日新聞』1 月 29 日
 - ・センター行事・資料室関係
「減災 楽しみながら（ひとぼう HAT 減災サマー・フェス）」『朝日新聞』8 月 28 日
「資料 ありのまま次世代へ（人と防災未来センター資料室）」『毎日新聞』10 月 17 日

参考資料 8

災害対策専門研修「トップフォーラム in 栃木」カリキュラム

日 時：平成28年7月1日（金）13：30～17：15

場 所：栃木県庁 本館6階 大会議室1（第1部） 及び

本館8階 危機管理対策室（第2部）（宇都宮市埴田 1-1-20）

主 催：栃木県、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

時 間		内 容
13：30-13：35 (05)		開講式 栃木県知事 福田 富一
第1部 講義	13：35-14：20 (45)	栃木県における自然災害とその対応 人と防災未来センター センター長 河田 恵昭
	14：20-14：35 (15)	災害対応における首長の役割 人と防災未来センター リサーチフェロー 宇都宮大学 准教授 近藤 伸也
	14：35-14：55 (20)	災害対応における広報のあり方 人と防災未来センター リサーチフェロー 朝日放送株式会社報道局ニュース情報センター 記者 木戸 崇之
14：55-15：05 (10)		休 憩
第2部 演習	15：05-16：34 (89)	ワークショップ 目標管理型災害対応 ・オリエンテーション 人と防災未来センター 主任研究員 荒木 裕子 ・ワークショップ ※各班進行役 人と防災未来センター 研究部、リサーチフェロー
	16：34-16：54 (20)	模擬記者会見 グループ代表者
	16：54-17：01 (07)	模擬記者会見の講評 人と防災未来センター リサーチフェロー 朝日放送株式会社報道局ニュース情報センター 記者 木戸 崇之
	17：01-17：05 (04)	演習の振り返り ※各班進行役 人と防災未来センター 研究部、リサーチフェロー
17：05-17：10 (05)		全体の講評など 人と防災未来センター センター長 河田 恵昭
17：10-17：15 (05)		閉 講 人と防災未来センター 副センター長 白石 秀俊

参考資料 8

「減災 トップフォーラム in 長野」カリキュラム

日 時：平成 28 年 7 月 22 日（金） 13：00～17：00

場 所：ホテル国際 21 2 階「芙蓉の間」（長野県 長野市県町 576）

主 催：長野県

公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

時 間		内 容
13：00-13：05 (05)		開講式 長野県知事 阿部 守一
第 1 部 講義	13：05-13：50 (45)	長野県における自然災害とその対応 人と防災未来センター センター長 河田 恵昭
	13：50-14：05 (15)	災害対応における首長の役割 人と防災未来センター 研究員 菅野 拓
	14：05-14：25 (20)	災害対応における広報のあり方 人と防災未来センター リサーチフェロー 朝日放送株式会社報道局ニュース情報センター 記者 木戸 崇之
14：25-14：40 (15)		休 憩
第 2 部 演習	14：40-16：10 (90)	ワークショップ目標管理型災害対応 ・オリエンテーション 人と防災未来センター 主任研究員 坪井 聖太郎 ・ワークショップ ※各班進行役 人と防災未来センター 研究部、リサーチフェロー
	16：10-16：30 (20)	模擬記者会見 グループ代表者
	16：30-16：37 (07)	模擬記者会見の講評 人と防災未来センター リサーチフェロー 朝日放送株式会社報道局ニュース情報センター 記者 木戸 崇之
	16：37-16：45 (08)	演習の振り返り ※各班進行役 人と防災未来センター 研究部、リサーチフェロー
16：45-16：50 (05)		全体の講評など 人と防災未来センター センター長 河田 恵昭
16：50-16：55 (05)		長野県からの依頼事項 災害時住民支え合いマップ作成について 長野県危機管理監 野池 明登
16：55-17：00 (05)		閉講 人と防災未来センター 副センター長 白石 秀俊

参考資料 8

災害対策専門研修「トッpfォーラム in 富山」カリキュラム

日 時：平成29年2月8日（水） 13：00～17：00
 場 所：富山県民会館304号室（富山県富山市新総曲輪4-18）
 主 催：富山県、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

時 間		内 容
13：00-13：05 (05)		開講式 富山県知事 石井 隆一
第1部 講義	13：05-13：50 (45)	富山県で心配な災害と危機管理 人と防災未来センター センター長 河田 恵昭
	13：50-14：10 (20)	災害対応における首長の役割 人と防災未来センター 主任研究員 荒木 裕子
	14：10-14：30 (20)	災害対応における広報のあり方 人と防災未来センター 特別研究調査員 NHK 大阪放送局編成部アナウンサー 横尾 泰輔
14：30-14：45 (15)		休 憩
第2部 演習	14：45-16：20 (95)	ワークショップ 目標管理型災害対応 ・オリエンテーション 人と防災未来センター 研究員 中林 啓修 ・ワークショップ ※各班進行役 人と防災未来センター 研究部
	16：20-16：35 (15)	模擬記者会見 グループ代表者
	16：35-16：40 (05)	模擬記者会見の講評 人と防災未来センター
16：40-16：50 (10)		全体の講評など 人と防災未来センター センター長 河田 恵昭
16：50-17：00 (10)		閉 講 人と防災未来センター 副センター長 白石 秀俊

参考資料 8

平成 28 年度春期 災害対策専門研修

マネジメントコース：ベーシック

主担当：主任研究員 高田 洋介

	5月31日(火)	6月1日(水)	6月2日(木)	6月3日(金)
1限 09時30分 ～ 10時45分	10:40～11:00 開講式 11:00～12:15 オリエンテーション 高田 洋介 人と防災未来センター 主任研究員	行政における災害対応業務の実際 畑 文隆 西宮市開発指導課 課長 (元南三陸町復興事業推進課出向) 後藤 武志 飯田市危機管理室防災係長 ・大規模災害における行政対応の経験や、地域に向けての防災・減災活動の経験について学び、災害対応業務の実践について学ぶ。	災害史と社会 福和 伸夫 人と防災未来センター上級研究員 (名古屋大学 減災連携研究センター長・教授) ・過去の震災が歴史に与えた影響を学びつつ、現代の都市と社会の分析をとおして、その脆弱性と災害像を予測し、備えの方法を考える	災害関連法体系基礎 山崎 栄一 関西大学社会安全学部 教授 ・災害対応にあたって使える権限・財源を理解する ・災害対策基本法・災害救助法の守備範囲を理解する
2限 11時00分 ～ 12時15分		危機管理総論 石原 凌河 人と防災未来センター リサーチフェロー (龍谷大学政策学部 講師) ・危機管理の基礎的な考え方と実務上のとらえ方を理解する	我が国における災害対応の動向 小川 剛史 内閣府政策統括官(防災担当) 付参事官(事業推進担当) 付参事官補佐(復旧・復興担当) ・東日本大震災の経験を踏まえて、最新の国の災害対応体制について理解する	災害と男女共同参画 斉藤 容子 人と防災未来センター リサーチフェロー ・災害時における男女共同参画の視点をこれまでの事例を踏まえて理解を深める。
3限 13時15分 ～ 14時30分	被災者対応総論 重川 希志依 常葉大学社会環境学部 教授 ・災害時に行政が対応すべき被災者支援業務の内容とその流れについて理解する	災害をもたらす自然現象の理解 (地震・津波) 清野 純史 人と防災未来センター 上級研究員 (京都大学地球環境学 教授) ・地震発生のメカニズムと、それによる物理的・社会的被害を理解し、自治体の対応を考える	都市の復興概論＋復興まちあるき 小林 郁雄 人と防災未来センター 上級研究員 (兵庫県立大学 特任教授) 宇田川 真之 人と防災未来センター 研究主幹 ・ARを利用しながら阪神・淡路大震災の被災地を歩き、復興過程と様々な取り組みを学ぶ	災害過程論 木村 玲玖 兵庫県立大学環境人間学部 准教授 ・災害発生後に、被災者が直面する様々な課題を時間軸から理解する
4限 14時45分 ～ 16時00分	(センター展示施設見学ワークショップ) 災害時に被災者が直面する生活課題 高田 洋介 人と防災未来センター 主任研究員 ・災害発生時に人びとが直面する生活上の課題を具体的にイメージする	災害をもたらす自然現象の理解 (風水害) 川池 健司 京都大学防災研究所 准教授 ・風水害の発生過程とその対応方法を理解し、自治体の対応を考える	都市の復興概論＋復興まちあるき 小林 郁雄 人と防災未来センター 上級研究員 (兵庫県立大学 特任教授) 宇田川 真之 人と防災未来センター 研究主幹 ・ARを利用しながら阪神・淡路大震災の被災地を歩き、復興過程と様々な取り組みを学ぶ	全体討論会 高田 洋介 人と防災未来センター 主任研究員 ・参加者の意見交換から、災害対応における姿勢を学ぶ
5限 16時15分 ～ 17時30分		地域防災計画論 今石 佳太 人と防災未来センター DisasterManager (芦屋市企画部 市長室長) ・地域防災計画の法的な位置づけとそれを補完するプログラム、活用方策の事例を理解する		16:00～16:40 レポートタイム 16:40～16:55 閉講式
17時30分 ～ 17時45分	レポートタイム	レポートタイム		

マネジメントコース：エキスパートA

主担当：主任研究員 荒木 裕子

	6月7日(火)	6月8日(水)	6月9日(木)	6月10日(金)
1限 09時30分 ～ 10時45分	(センター展示見学：希望者のみ)	災害対応概論(復旧・復興期) 越山 健治 人と防災未来センターリサーチフェロー (関西大学 社会安全学部 教授) ・復旧・復興期の対応と課題について学ぶ	危機対応時の組織論(情報システム) 宇田川 真之 人と防災未来センター 研究主幹 ・災害発生前後の情報の収集・整理と共有化の重要性を理解し、情報システム(GISなど)の活用方策を学ぶ	災害対応ワークショップ 荒木 裕子 人と防災未来センター主任研究員 ・演習を通じて目標管理型災害対応の考え方を身につける
2限 11時00分 ～ 12時15分	10:40～11:00 開講式 11:00～12:15 オリエンテーション 荒木 裕子 人と防災未来センター主任研究員	災害対応各論(医療活動) 甲斐 達朗 人と防災未来センター上級研究員(済生会千里病院 千里救命救急センター 顧問) ・災害現場の医療活動体制について理解を深める	危機対応各論(行政と自衛隊との連携) 早川 喜代司 (元 陸上自衛隊第3師団飛行隊長) ・行政と自衛隊の連携について理解を深める	
3限 13時15分 ～ 14時30分	災害対応概論(初動期) 坪井 望太郎 人と防災未来センター主任研究員 古越 武彦 人と防災未来センターリサーチフェロー(長野建設事務所 維持管理課 管理係 課長補佐兼管理係長) ・初動対応時の対応と課題について理解を深める	災害対応各論(災害時の物流対応) 興村 徹(株)日通総合研究所 シニアエグゼクティブオフィサー 兼 教育コンサルティング部長 ・災害直後から被災者の生活支援のための物流対応について、自治体担当部署のみならず民間運送会社などの能力も活用した実践的な事例を学ぶ	災害対応各論(広域連携) 阪本 真由美 人と防災未来センターリサーチフェロー(名古屋大学 減災連携研究センター 特任准教授) ・災害時の被災自治体の対応において、広域連携のあり方について理解を深める	民間企業と連携した災害対応 鈴木 昭紀 ヤフー株式会社(公共サービス事業本部官公庁営業部兼政策企画室) ・民間企業と連携した平常時の減災対策や災害時の応急対策について、取り組み事例に基づき学ぶ
4限 14時45分 ～ 16時00分	災害対応概論(応急期) 荒木 裕子 人と防災未来センター主任研究員 古越 武彦 人と防災未来センターリサーチフェロー(長野建設事務所 維持管理課 管理係 課長補佐兼管理係長) ・応急対応期の対応と課題について理解を深める	市民社会ワークショップ 立木 茂雄 人と防災未来センター上級研究員(同志社大学社会学部 教授) 山本 康史 ハローボランティア・ネットワーク みえ代表 ハローボランティア・ネットワーク みえ事務局 ・災害時の被災社会の対応において、ボランティアの果たす役割、市民の力の特徴と行政との関係のあり方について理解を深める	災害対応各論(被災者救護の実践的取り組み) 進藤 教彦 内閣府 政策統括官(防災担当) 付参事官(被災者行政担当) 付 大規模災害救助支援専門職 ・災害救助法適用事例等から災害救助法の理解を深める	全体振りかえりワークショップ 荒木 裕子 人と防災未来センター主任研究員 ・災害対応に関わるワークショップを行い、研修で得た知識を実践に活かす方法を考える
5限 16時15分 ～ 17時30分	災害対応演習(クマ演習) 荒木 裕子 人と防災未来センター主任研究員 ・危機発生時の具体的な課題をもとに、災害対応の考え方について学ぶ		危機対応時の組織論(戦略的な広報について) 安富 信 人と防災未来センターリサーチフェロー(神戸学院大学 現代社会学部社会防災学科 教授) 川西 勝 人と防災未来センターリサーチフェロー(読売新聞神戸総局 総局長) ・災害時の情報提供方法、報道機関対応の課題を学ぶ	16:00～16:40 レポートタイム 16:40～16:55 閉講式
17時30分 ～ 17時45分	レポートタイム	レポートタイム	レポートタイム	



マネジメントコース：エキスパートB

主担当：主任研究員 坪井 惣太郎

	6月14日（火）	6月15日（水）	6月16日（木）	6月17日（金）
1限 09時30分 ～ 10時45分		災害時のこころのケア 大澤 智子 兵庫県こころのケアセンター 研究主幹 ・災害発生初期の被災者に対する接し方及び災害対応業務を行う上でのマインドケアについて	災害時要配慮者への対応 立木 茂雄 人と防災未来センター上級研究員（同志社大学 社会学部教授） ・災害時要配慮者の実態とそれを踏まえた対応について学ぶ	災害時の健康危機管理 高田 洋介 人と防災未来センター主任研究員 ・被災住民の健康危機に対する行政の支援について理解を深める
2限 11時00分 ～ 12時15分	10:40～11:00 開講式 11:00～12:15 オリエンテーション 坪井 惣太郎 人と防災未来センター主任研究員	標準的な災害対応システム論 牧 紀男 人と防災未来センター震災資料研究主幹（京都大学防災研究所教授） ・災害対応における標準的業務手順や対応手法について学ぶ	都市巨大災害論 河田 恵昭 人と防災未来センター長 ・事例を通じて災害による被害過程の全体像について理解する	災害情報の受発信手法 木戸 崇之 人と防災未来センターリサーチフェロー（朝日放送報道局ニュース情報センター 記者） ・被害情報の受信（収集）と発信（広報）およびこれらを総合した情報共有のあり方について学ぶ
3限 13時15分 ～ 14時30分	NGO/NPO の災害対応と協働 明城 徹也 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOD）事務局長 菅野 拓 人と防災未来センター研究員 ・NGO/NPO に対する理解を深め、災害支援における民間と行政の連携について学ぶ	災害対策本部の空間構成設計演習 元谷 豊 株式会社サイエンスクラフト取締役マネージャー・主席コンサルタント ・災害対策本部のレイアウトの重要性、また適切なレイアウトについて、演習を交えて理解する	被災者行政の流れと課題 長尾 聡 新潟県新潟地域振興局 新潟港湾事務所 工務課長（元新潟県防災局防災企画課 政策企画員） ・被災者の生活再建を見据えた行政業務の一連の流れと課題について、初期段階での留意点やマネジメントについて学ぶ。	災害の対応事例と教訓 齋藤 富雄 関西国際大学教授 セーフティマネジメント教育研究センター長（元兵庫県防災監） ・災害事例をもとに、災害対応の課題と対応方法の考え方について理解を深める ・事例をもとに意見交換を行い、災害対応のあり方について理解を深める
4限 14時45分 ～ 16時00分	業務継続計画論 紅谷 昇平 人と防災未来センターリサーチフェロー（兵庫県立大学 防災教育研究センター准教授） ・各公共機関における BCP の意味と重要性について、また、その導入について、具体的な事例を交えて理解する		ゲーミング手法を活用した防災・減災ワークショップ 矢守 克也 人と防災未来センター上級研究員（京都大学防災研究所巨大災害研究センター・教授・センター長） ・阪神・淡路大震災の事例を踏まえつつ、災害時の対応イメージを豊かにすることの重要性とその方法について、ゲーミング手法を活用して学ぶ	全体振りかえりワークショップ 坪井 惣太郎 人と防災未来センター主任研究員 ・災害対応に関わるワークショップを行い、研修で得た知識を実践に活かす方法を考える
5限 16時15分 ～ 17時30分	防災・減災の事前対策と普及啓発 坪井 惣太郎 人と防災未来センター主任研究員 ・地域や居住者に向けての防災・減災活動の具体的取り組みについて、事例とディスカッションを通して学ぶ	避難の実態と課題 宇田川 真之 人と防災未来センター研究主幹 ・災害種別ごとに異なる避難行動のタイミングと避難が困難な要援護者への対応について学ぶ		16:00～16:40 レポートタイム 16:40～16:55 閉講式
17時30分 ～ 17時45分	レポートタイム	レポートタイム	レポートタイム	

参考資料 8

平成 28 年度 秋期 災害対策専門研修

マネジメントコース：エキスパート A

主担当：研究員 松川 杏寧

	10月11日(火)	10月12日(水)	10月13日(木)	10月14日(金)
1限 09時30分 ～ 10時45分	10:40～11:00 開講式 11:00～12:15 オリエンテーション 松川 杏寧 人と防災未来センター研究員	危機対応時の組織論（情報システム） 宇田川 真之 人と防災未来センター 研究主幹 ・災害発生前後の情報の収集・整理と共有化の重要性を理解し、情報システム（GISなど）の活用方策を学ぶ	市民社会ワークショップ 立木 茂雄 人と防災未来センター上級研究員 （同志社大学社会学部 教授） 山本 康史 ハローボランティア・ネットワークみえ代表	災害対応ワークショップ 松川 杏寧 人と防災未来センター研究員 ・演習を通じて目標管理型災害対応の考え方を身につける
2限 11時00分 ～ 12時15分		危機対応各論（行政と自衛隊との連携） 早川 喜代司 元 陸上自衛隊第3師団飛行隊長 ・行政と自衛隊の連携について理解を深める	平野 昌 ハローボランティア・ネットワークみえ事務局長 ・災害時の被災社会の対応において、ボランティアの果たす役割、市民の力の特徴と行政との関係のあり方について理解を深める	
3限 13時15分 ～ 14時30分	災害対応概論（初動期） 坪井 豊太郎 人と防災未来センター主任研究員 古越 武彦 人と防災未来センターリサーチフェロー（長野建設事務所 維持管理課 管理係 課長補佐兼管理係長） ・初動対応時の対応と課題について理解を深める	災害対応各論（災害時の物流対応） 興村 徹 株式会社日通総合研究所 Senior Executive Officer (Sales Development Unit) ・災害直後から被災者の生活支援のための物流対応について、自治体担当部署のみならず民間運送会社などの能力も活用した実践的な事例を学ぶ	災害対応各論（広域連携） 阪本 真由美 人と防災未来センターリサーチフェロー（名古屋大学 減災連携研究センター 特任准教授） ・災害時の被災自治体の対応において、広域連携のあり方について理解を深める	災害対応各論（被災者救護の実践的取り組み） 三上 晴由貴 新潟県福祉保健部医療事業課 地域医療班 政策企画員 ・災害救助法適用事例から災害救助法の理解を深める
4限 14時45分 ～ 16時00分	災害対応概論（応急期） 荒木 裕子 人と防災未来センター主任研究員 古越 武彦 人と防災未来センターリサーチフェロー（長野建設事務所 維持管理課 管理係 課長補佐兼管理係長） ・応急対応期の対応と課題について理解を深める	民間企業と連携した災害対応 鈴木 昭紀 ヤフー株式会社 公共サービス事業本部官公庁営業部兼政策企画室 水谷 嘉浩 Jパックス株式会社 代表取締役 全国段ボール工業組合連合会 防災担当アドバイザー ・民間企業と連携した平常時の減災対策や災害時の応急対策について、取り組み事例に基づき学ぶ	災害対応各論（医療活動） 甲斐 達朗 人と防災未来センター上級研究員（済生会千里病院 千里救命救急センター 顧問） ・災害現場の医療活動体制について理解を深める	全体振りかえりワークショップ 松川 杏寧 人と防災未来センター研究員 ・災害対応に関わるワークショップを行い、研修で得た知識を実践に活かす方法を考える
5限 16時15分 ～ 17時30分	災害対応概論（復旧・復興期） 澤田 雅浩 長岡造形大学 建築・環境デザイン学科 准教授 ・復旧・復興期の対応と課題について学ぶ	災害対応演習（クマ演習） 松川 杏寧 人と防災未来センター研究員 ・危機発生時の具体的な課題をもとに、災害対応の考え方について学ぶ	危機対応時の組織論（戦略的な広報について） 安富 信 人と防災未来センターリサーチフェロー（神戸学院大学 現代社会学部社会防災学科 教授） 川西 勝 人と防災未来センターリサーチフェロー（読売新聞神戸総局 総局長） ・災害時の情報提供方法、報道機関対応の課題を学ぶ	16:00～16:40 レポートタイム 16:40～16:55 閉講式
17時30分 ～ 17時45分	レポートタイム	レポートタイム	レポートタイム	

マネジメントコース：エキスパート B

主担当：研究員 本塚 智貴

	10月18日(火)	10月19日(水)	10月20日(木)	10月21日(金)
1限 09時30分 ～ 10時45分	(センター展示見学：希望者のみ)	災害対策本部の空間構成設計演習 元谷 豊 株式会社サイエンスクラフト取締役マネージャー・主席コンサルタント ・災害対策本部のレイアウトの重要性、また適切なレイアウトについて、演習を交えて理解する	災害情報の受信手法 木戸 崇之 人と防災未来センターリサーチフェロー（朝日放送報道局ニュース情報センター 記者） ・被害情報の受信（収集）と発信（広報）およびこれらを総合した情報共有のあり方について学ぶ	災害の対応事例と教訓 齋藤 富雄 関西国際大学教授 セーフティマネジメント教育研究センター長（元兵庫県防災監） ・災害事例をもとに、災害対応の課題と対応方法の考え方について理解を深める ・事例をもとに意見交換を行い、災害対応のあり方について理解を深める
2限 11時00分 ～ 12時15分		災害対応演習（クマ演習） 本塚 智貴 人と防災未来センター研究員	被災者行政の流れと課題 菅野 拓 人と防災未来センター研究員 ・被災者の生活再建を見据えた行政業務の一連の流れと課題について、初期段階での留意点やマネジメントについて学ぶ。	都市巨大災害論 河田 恵昭 人と防災未来センター長 ・事例を通じて災害による被害過程の全体像について理解する
3限 13時15分 ～ 14時30分	業務継続計画論 紅谷 昇平 人と防災未来センターリサーチフェロー（兵庫県立大学 防災教育研究センター 准教授） ・各公共機関におけるBCPの意味と重要性について、また、その導入について、具体的な事例を交えて理解する	災害時の健康危機管理 高田 洋介 人と防災未来センター主任研究員 ・被災住民の健康危機に対する行政の支援について理解を深める	防災・減災の事前対策と普及啓発 坪井 豊太郎 人と防災未来センター主任研究員 本塚 智貴 人と防災未来センター研究員 ・地域や居住者に向けての防災・減災活動の具体的な取り組みについて、事例とディスカッションを通して学ぶ	標準的な災害対応システム論 木村 玲欧 兵庫県立大学 環境人間学部 大学院環境人間学研究科准教授 ・災害対応における標準的業務手順や対応手法について学ぶ
4限 14時45分 ～ 16時00分	ゲーミング手法を活用した防災・減災ワークショップ 矢守 克也 人と防災未来センター上級研究員（京都大学防災研究所巨大災害研究センター・教授・センター長） ・阪神・淡路大震災の事例を踏まえて、災害時の対応イメージを豊かにすることの重要性とその方法について、ゲーミング手法を活用して学ぶ	NGO/NPOの災害対応と協働 明城 徹也 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）事務局長 菅野 拓 人と防災未来センター研究員 ・NGO/NPOに対する理解を深め、災害支援における民間と行政の連携について学ぶ	災害時のこころのケア 大澤 智子 兵庫県こころのケアセンター 研究主幹 ・災害発生初動期の被災者に対する接し方及び災害対応業務を行う上でのマインドケアについて	全体振りかえりワークショップ 本塚 智貴 人と防災未来センター研究員 ・災害対応に関わるワークショップを行い、研修で得た知識を実践に活かす方法を考える
5限 16時15分 ～ 17時30分	レポートタイム	避難の実態と課題 宇田川 真之 人と防災未来センター 研究主幹 ・災害種別ごとに異なる避難行動のタイミングと避難が困難な要援護者への対応について学ぶ	災害時要配慮者への対応 村野 淳子 別府市企画部危機管理課 防災推進専門員 ・災害時要配慮者の実態とそれを踏まえた対応について学ぶ	16:00～16:40 レポートタイム 16:40～16:55 閉講式
17時30分 ～ 17時45分		レポートタイム	レポートタイム	



アドバンスト／防災監・危機管理監コース

主担当：研究主幹 宇田川 真之

10月27日(木)	10月28日(金)
(9:30～ センター展示見学：希望者のみ)	9:30～11:00 90分 危機対応組織論 河田 恵昭 人と防災未来センター センター長 ・危機対応をする上で首長を補佐する職にある人が必要とする能力について理解する。
10:30～10:45 開講式 10:45～11:30 オリエンテーション 宇田川 真之 人と防災未来センター 研究主幹	11:15～12:30 75分 災害対応特論 室崎 益輝 公財 ひょうご震災記念21世紀研究機構 副理事長 ・災害の状況に応じて既存法制度の限界部分、対応策についての指示、判断ができるようになるための考えを深める。講義は討論形式で行う。
11:45～12:30 45分 目標管理型災害対応論 宇田川 真之 人と防災未来センター 研究主幹 ・目標管理型災害対応の考え方やその具体的内容について、過去の災害事例を踏まえ理解する。	
休 憩	
13:30～15:00 90分 行政対応特論① 鬼頭 哲也 丹波市 副市長 ・市町村における災害対応事例から課題や教訓を学ぶ。	13:30～16:00 150分 (途中休憩あり) 災害対応検討ワークショップ ・演習を通じて目標管理型災害対応の考え方を身につける。 室崎 益輝 (公財) ひょうご震災記念21世紀研究機構 副理事長 宇田川 真之 人と防災未来センター 研究主幹
15:15～17:15 120分 行政対応特論② 齋藤 富雄 兵庫県国際交流協会理事長 元兵庫県防災監 ・県における大規模災害時の対応事例を知り、災害発生後の対応や課題と首長に助言すべき内容を学ぶ。講義は討論形式で行う。	16:00～16:15 レポートタイム 16:15～16:30 閉講式
17:15～17:30 レポートタイム	

※内容や時間帯については変更の可能性があります。

参考資料 8

平成 28 年度 災害対策専門研修特設コース

図上訓練を用いた災害対策本部運営・広報コース

主担当：研究員 菅野 拓

平成28年12月13日(火)	平成28年12月14日(水)
(10:00～10:10) 開講式 (10:10～10:25) オリエンテーション DRI 研究員 菅野 拓	(9:00～9:05) オリエンテーション (2日目) (9:05～9:20) 作戦会議 役割分担の再確認。
(10:25～10:45) 講義1：災害対策本部での業務と目標管理型災害対応 DRI 主任研究員 坪井 壘太郎 (10:45～11:30) 講義2：災害時の広報対応 神戸学院大学 現代社会学部 教授 安富 信	(9:20～11:20) 第2回図上訓練 発生2日後 (11:20～11:50) 本部長レク 1週間後までの災害対応計画案などの説明
(11:30～12:30) 休 憩	(11:50～12:15) 記者会見資料の作成 記者会見資料の作成
(12:30～13:45) 自己紹介・班分け 図上訓練ルール説明 DRI 研究員 菅野 拓	(12:15～13:15) 休 憩
(13:45～14:30) 作戦会議 役割分担の確認	(13:15～14:45) 記者会見シミュレーション 報道記者 災害対応(演習)を踏まえた記者発表を行う。
(14:30～16:30) 第1回図上訓練 地震発生当日	(14:45～15:00) 休 憩 記念撮影
(16:30～17:00) 本部長レク 状況認識の統一など	(15:00～16:15) 振り返り 各グループ・班ごとに振り返り
(17:00～17:50) 振り返り 各グループ・担当ごとに振り返り	(16:15～16:50) 発表 振り返り内容について発表
(17:50～18:00) 講評 演習全体の視点から受講者にアドバイス	(16:50～17:20) 講評・質疑応答 演習全体の視点から講評と質疑応答 全体進行 DRI 主任研究員 坪井 壘太郎
(18:00～18:30) 作戦会議 翌日の図上訓練に向けた改善、準備	(17:20～17:30) 閉講式

フォローアップセミナー

於：人と防災未来センター 東館 6F 第1・第2会議室
東館 4F 兵庫県立大学大教室

テーマ：災害発生時の組織間連携に向けた取り組み

主担当：主任研究員 荒木 裕子

平成29年2月27日(月)	平成29年2月28日(火)
	(09:30～11:00) 「平成28年度災害対応・防災事例報告」 ・各自治体における災害対応事例、防災にかかわる施策の実施等について情報交換を行う。
	(休憩 11:00～11:15)
	(11:15～12:30) 「平成28年度災害対応・防災事例報告」 ・各自治体における災害対応事例、防災にかかわる施策の実施等について情報交換を行う。
(13:00～13:10) 開講式	(昼休憩 12:30～13:30)
(13:10～13:45) オリエンテーション・自己紹介	(13:30～14:30) 講義「神戸市における災害受援計画策定の取り組み」 横谷 征平 神戸市危機管理室
(休憩・部屋移動: 13:45～14:00)	
(14:00～17:30) ○人と防災未来センター・熊本地震支援報告 ○平成28年度中核的研究プロジェクト報告 ～広域巨大災害における組織間連携方策のあり方に関する研究～ ・各研究員からの報告（熊本地震等における組織間連携等から） ・研究成果をもとにした災害対応のあり方に関する参加者の意見交換	(14:30～15:45) ワークショップ 「災害時の受援と受援計画策定に向けた課題・対応策」 個人ワークとグループワークによる課題共有と対応策の検討
	(15:45～15:55) 事務連絡「災害対策専門研修サポーター制度について」 ・平成29年度の人と防災未来センター災害対策専門研修サポーター制度について説明。・平成29年度の人と防災未来センター災害対策専門研修について説明。
	(15:55～16:10)・レポートタイム
	(16:10～16:20) 閉校式
(17:45～20:00) 交流会	

参考資料 8

平成 28 年度 防災スペシャリスト養成研修

(有明の丘 1 期)

防災基礎						
		1限	2限	3限	4限	5限
9月5日	講座名	防災基礎総論	防災行政概要	災害法体系	防災計画	地震・津波のメカニズムと実態
	講師名	牛山素行 (静岡大学)	山田博道 (内閣府)	三島梨加 (内閣府)	戸谷知文 (内閣府)	林能成 (関西大学)
9月6日	講座名	風水害のメカニズムと実態	火山のメカニズムと実態	災害対応過程と態度を学ぶ		全体討論
	講師名	牛山素行 (静岡大学)	石原和弘 (火山防災推進機構)	竹本加良子 (サイエンスクラフト)		牛山素行 (静岡大学)

災害への備え						
		1限	2限	3限	4限	5限
9月8日	講座名	「災害への備え」総論	「災害への備え」としての地域防災計画	災害ボランティア	地域の自主的な防災活動	「災害への備え」ワークショップ
	講師名	丸谷浩明 (東北大学)	大石哲也 (静岡県)	加納佑一 (東京ボランティア市民活動センター)	鎌倉宏(白馬村) 柳迫長三(広島市) 丸谷浩明(東北大学)	丸谷浩明 (東北大学)
9月9日	講座名	行政の BCM	住民啓発・災害教訓の伝承	防災教育	企業防災	全体討論
	講師名	丸谷浩明 (東北大学)	国崎信江 (危機管理教育研究所)	佐藤健 (東北大学)	武田賢治 (日本生協連盟) 五十嵐桂樹 (みやぎ生協) 丸谷浩明(東北大学)	丸谷浩明 (東北大学)

警報避難						
		1限	2限	3限	4限	5限
9月13日	講座名	警報避難総論	警報等の種類と内容	風水害における警報と避難	避難勧告等の判断・伝達	風水害におけるタイムライン計画(演習)
	講師名	林春男 (防災科学技術研究所)	瀧下洋一 (気象庁)	林春男(防災科研) 森下邦治(福知山市)	多田直人 (内閣府)	井ノ口宗成(静岡大学) 森下邦治(福知山市) 越野修三(岩手大学)
9月14日	講座名	土砂災害における警報と避難	土砂災害の事例に学ぶ	避難場所・避難所の認定	避難場所・避難所の適否判断演習	全体討論
	講師名	大野宏之(砂防・地すべり技術センター)	井ノ口宗成(静岡大学) 越野修三(岩手大学)	井ノ口宗成 (静岡大学)	井ノ口宗成(静岡大学) 越野修三(岩手大学)	井ノ口宗成 (静岡大学)

応急活動・資源管理						
		1限	2限	3限	4限	5限
9月15日	講座名	応急活動・資源管理総論	地方公共団体間の相互応援	活動拠点・環境の確保	緊急消防援助隊と自衛隊の災害派遣	資源管理演習
	講師名	宇田川真之 (人と防災未来センター)	長尾聡(新潟県) 三宅亘(神戸市)	内閣府(代講 宇田川) 藤森龍(兵庫県広域防災センター)	佐藤章仁(消防庁) 世良達裕(防衛省)	宇田川真之 (人と防災未来センター)
9月16日	講座名	救援物資の調達	救援物資の輸配送	警察災害派遣隊の活動と緊急輸送路の確保	救援物資ロジスティック演習	全体討論
	講師名	古澤通規 (コメリ災害対策センター)	興村徹 (日通総合研究所)	中尾節也(警察庁) 金成賢一(警察庁)	宇田川真之 (人と防災未来センター)	宇田川真之 (人と防災未来センター)

被災者支援						
		1限	2限	3限	4限	5限
9月27日	講座名	被災者支援総論	避難所のライフサイクル	災害時要配慮者のための避難所生活支援	医療による被災者支援	避難所のライフサイクル（演習）
	講師名	田村圭子（新潟大学）	太田智久（富士市）	石上和男（新潟医療福祉大学）	阿南英明（藤沢市民病院）	田村圭子（新潟大学） 太田智久（富士市）
9月28日	講座名	災害救助法と生活再建支援法	避難所運営の実際	多様な主体による被災者支援／被災者支援の個別課題	生活再建支援業務	被災者支援のタイムライン策定（演習）／全体討論
	講師名	進藤敦彦（内閣府） 湯澤信行（内閣府）	国崎信江（危機管理教育研究所）	児島正（損保OB・OG防災を考える有志の会） 小海崇史（新潟県） 山本晋吾（人と防災未来センター）	田村圭子（新潟大学） 細貝和司（新潟県）	田村圭子（新潟大学）

復旧復興						
		1限	2限	3限	4限	5限
9月29日	講座名	復旧復興総論	災害廃棄物処理	公共基盤の復旧（基盤復興Ⅰ）	仮設住宅（生活復興Ⅰ）	コミュニティ再生（社会復興）
	講師名	中林一樹（明治大学）	切川卓也（環境省）	後藤隆昭（内閣府）	丸山由明（新潟県）	稲垣文彦（中越防災安全推進機構）
9月30日	講座名	市街地基盤の復興とまちづくり（基盤復興Ⅱ）	住まいの再建（生活復興Ⅱ）	産業復興と雇用の確保（産業復興）	復旧復興演習（復興計画の策定体制）	全体討論
	講師名	畑文隆（西宮市）	塩崎賢明（立命館大学）	永松伸吾（関西大学）	中林一樹（明治大学）	中林一樹（明治大学）

指揮統制						
		1限	2限	3限	4限	5限
10月4日	講座名	指揮統制総論	危機対応組織のリーダーの役割1「組織運営」「安全管理」	危機対応組織のリーダーの役割2「情報処理」「広報」	災害広報	
	講師名	林春男（防災科学技術研究所）	熊丸由布治（日本防災デザイン）	熊丸由布治（日本防災デザイン）	大和田智広（陸前高田市） 近藤誠司（関西大学）	
10月5日	講座名	リーダーシップ	トップにとっての災害対策本部運営	指揮統制の現状		全体討論
	講師名	林春男（防災科学技術研究所）	越野修三（岩手大学）	戸羽太（陸前高田市） 久住時男（見附市）		林春男（防災科学技術研究所）

対策立案						
		1限	2限	3限	4限	5限
10月6日	講座名	対策立案総論	当面の実行計画の構造	計画立案のプロセス	災害対策本部運営演習	
	講師名	林春男（防災科学技術研究所）	林春男（防災科学技術研究所）	林春男（防災科学技術研究所）	新堀賢志（火山防災推進機構）	
10月7日	講座名	事前の災害対応計画の構造	効果的な地図作成手法	効果的なマニュアル作成		全体討論
	講師名	林春男（防災科学技術研究所）	田口仁（内閣府）	東田光裕（防災デザイン研究会） 元谷豊（サイエンスクラフト）		林春男（防災科学技術研究所）

人材育成						
		1限	2限	3限	4限	5限
10月11日	講座名	人材育成総論	訓練・研修の実際	訓練・研修 企画手法	訓練企画運営実践Ⅰ 状況付与型図上演習	
	講師名	黒田洋司 (消防防災科学センター)	山田裕治(内閣府) 山本晋吾 (人と防災未来センター)	近藤伸也 (宇都宮大学)	黒田洋司(消防防災科学センター) 宇治田和(ランドブレイン) 飯塚 智規(消防防災科学センター)	
10月12日	講座名	訓練企画運営演習Ⅱ 討議型図上演習		人材育成プログラム作成演習		
	講師名	元谷豊 (サイエンスクラフト)		黒田洋司(消防防災科学センター) 鍵屋一(跡見学園女子大学)・渡邊浩一郎(千葉県館山市) 近藤伸也(宇都宮女子大学)・宇治田和(ランドブレイン)		

総合防災						
		1限	2限	3限	4限	5限
10月13日	講座名	総合防災政策	被害想定	被害抑止政策		防災政策演習
	講師名	岩田孝仁 (静岡大学)	藤原広行(防災科研) 山田隆二(防災科研)	池谷浩(砂防・地すべり技術センター) 多田直人(内閣府) 井上貴仁(防災科学技術研究所) 藤崎哲郎(東京都)		岩田孝仁 (静岡大学)
10月14日	講座名	組織内の 応急活動政策	組織外の 応急活動政策	災害対策本部体制(演習)		全体討論
	講師名	木村敬 (総務省)	浜田展和(内閣府) 丹羽浩之(広島市)	岩田孝仁(静岡大学) 細貝和司(新潟県) 元谷豊(サイエンスクラフト)		岩田孝仁 (静岡大学)

(有明の丘 2期)

防災基礎						
		1限	2限	3限	4限	5限
1月24日	講座名	防災基礎総論	防災行政概要	火山の メカニズムと実態	風水害の メカニズムと実態	地震・津波の メカニズムと実態
	講師名	牛山素行 (静岡大学)	安邊英明 (内閣府)	石原和弘 (火山防災推進機構)	牛山素行 (静岡大学)	林能成 (関西大学)
1月25日	講座名	災害法体系	防災計画	災害対応過程と態度を学ぶ		全体討論
	講師名	石田潤一 (内閣府)	戸谷知文 (内閣府)	竹本加良子 (サイエンスクラフト)		牛山素行 (静岡大学)

災害への備え						
		1限	2限	3限	4限	5限
2月9日	講座名	「災害への備え」 総論	「災害への備え」とし ての地域防災計画	行政のBCM	企業防災	防災教育
	講師名	丸谷浩明 (東北大学)	岩田孝仁 (静岡大学)	丸谷浩明 (東北大学)	西村出(セブン&ア イ・ホールディングス)	佐藤健 (東北大学)
2月10日	講座名	「災害への備え」 ワークショップ	住民啓発・災害 教訓の伝承	地域の自主的な 防災計画	災害ボランティア	全体討論
	講師名	丸谷浩明 (東北大学)	国崎信江 (危機管理教育研究所)	中谷英世 (グランドメゾン杉並シー ズン管理組合防災会) 筒井義臣 (本一町会自主防災部)	丸谷浩明 (東北大学) 栗田暢之 (レスキューストックヤード)	丸谷浩明 (東北大学)

警報避難						
		1限	2限	3限	4限	5限
1月30日	講座名	警報避難総論	避難勧告等の判断・伝達	警報等の種類と内容	風水害における警報と避難	風水害におけるタイムライン計画（演習）
	講師名	井ノ口宗成（静岡大学）	黒木拓也（内閣府）	瀧下洋一（気象庁）	井ノ口宗成（静岡大学） 森下邦治（福知山市）	井ノ口宗成（静岡大学） 森下邦治（福知山市） 越野修三（岩手大学）
1月31日	講座名	土砂災害における警報と避難	土砂災害の事例に学ぶ	避難場所・避難所の認定	避難場所・避難所の適否判断演習	全体討論
	講師名	池谷浩（砂防・地すべり技術センター）	井ノ口宗成（静岡大学） 越野修三（岩手大学）	井ノ口宗成（静岡大学）	井ノ口宗成（静岡大学） 越野修三（岩手大学）	井ノ口宗成（静岡大学）

応急活動・資源管理						
		1限	2限	3限	4限	5限
2月2日	講座名	応急活動・資源管理総論	地方公共団体間の相互応援と受援計画	活動拠点・環境の確保	緊急消防援助隊と自衛隊の災害派遣	資源管理演習
	講師名	宇田川真之（人と防災未来センター）	長尾聡（新潟県） 三宅亘（神戸市）	長岡秀彦（内閣府） 高木正昭（日本電信電話株式会社）	塩谷壮史（消防庁） 世良達裕（防衛省）	宇田川真之（人と防災未来センター）
2月3日	講座名	救援物資の調達	救援物資ロジスティック演習	警察災害派遣隊の活動と緊急輸送路の確保	救援物資の輸配送	全体討論
	講師名	古澤通規（コメリ災害対策センター） 堂本敏雄（セブンイレブン・ジャパン）	宇田川真之（人と防災未来センター）	高木秀樹（警察庁） 金成賢一（警察庁）	興村徹（日通総合研究所）	宇田川真之（人と防災未来センター）

被災者支援						
		1限	2限	3限	4限	5限
2月7日	講座名	被災者支援総論	避難所のライフサイクル	災害時要配慮者のための避難所生活支援	医療による被災者支援	避難所のライフサイクル（演習）
	講師名	田村圭子（新潟大学）	太田智久（富士市）	石上和男（新潟医療福祉大学）	阿南英明（藤沢市民病院）	田村圭子（新潟大学） 太田智久（富士市）
2月8日	講座名	災害救助法と生活再建支援法	避難所運営の実践	多様な主体による被災者支援／被災者支援の個別課題	生活再建支援業務	被災者支援のタイムライン策定（演習）／全体討論
	講師名	進藤敦彦（内閣府） 湯澤信行（内閣府）	国崎信江（危機管理教育研究所）	小海崇史（新潟県） 山本晋吾（人と防災未来センター）	田村圭子（新潟大学） 細貝和司（新潟県）	田村圭子（新潟大学）

復旧復興						
		1限	2限	3限	4限	5限
2月14日	講座名	復旧復興総論	災害廃棄物処理	公共基盤の復旧（基盤復興Ⅰ）	仮設住宅（生活復興Ⅰ）	コミュニティ再生（社会復興）
	講師名	中林一樹（明治大学）	切川卓也（環境省）	後藤隆昭（内閣府）	遠藤延明（新潟県）	稲垣文彦（中越防災安全推進機構）
2月15日	講座名	市街地基盤の復興とまちづくり（基盤復興Ⅱ）	住まいの再建（生活復興Ⅱ）	産業復興と雇用の確保（産業復興）	復旧復興演習（復興計画の策定体制）	全体討論
	講師名	畑文隆（西宮市）	塩崎賢明（立命館大学）	永松伸吾（関西大学）	中林一樹（明治大学）	中林一樹（明治大学）



指揮統制						
		1限	2限	3限	4限	5限
2月16日	講座名	指揮統制総論	リーダーシップ	危機対応組織のリーダーの役割1「指揮統制の視点と原則」	災害広報	
	講師名	林春男 (防災科学技術研究所)	林春男 (防災科学技術研究所)	熊丸由布治 (日本防災デザイン)	高島哲夫 (新潟県) 木戸崇之 (朝日放送)	
2月17日	講座名	危機対応組織のリーダーの役割2「各スタッフの役割と機能」	トップにとっての災害対策本部運営	指揮統制の現状		全体討論
	講師名	熊丸由布治 (日本防災デザイン)	越野修三 (岩手大学)	國定勇人 (三条市) 伊東尚規 (福知山市)		林春男 (防災科学技術研究所)

対策立案						
		1限	2限	3限	4限	5限
2月21日	講座名	対策立案総論	当面の実行計画の構造	効果的な地図作成手法	災害対策本部運営演習	
	講師名	林春男 (防災科学技術研究所)	林春男 (防災科学技術研究所)	田口仁 (内閣府)	新堀賢志 (火山防災推進機構)	
2月22日	講座名	計画立案のプロセス	事前の災害対応計画の構造	効果的なマニュアル作成		全体討論
	講師名	林春男 (防災科学技術研究所)	林春男 (防災科学技術研究所)	東田光裕 (防災デザイン研究会) 元谷豊 (サイエンスクラフト)		林春男 (防災科学技術研究所)

人材育成						
		1限	2限	3限	4限	5限
2月23日	講座名	人材育成総論	訓練・研修の実際	訓練・研修企画手法	訓練企画運営実践Ⅰ 状況付与型図上演習	
	講師名	黒田洋司 (消防防災科学センター)	山田裕治 (内閣府) 山本晋吾 (人と防災未来センター)	近藤伸也 (宇都宮大学)	黒田洋司 (消防防災科学センター) 宇治田和 (ランドブレイン) 飯塚 智規 (消防防災科学センター)	
2月24日	講座名	訓練企画運営演習Ⅱ 討議型図上演習		人材育成プログラム作成演習		
	講師名	元谷豊 (サイエンスクラフト)		黒田洋司 (消防防災科学センター) 鍵屋一 (跡見学園女子大学) 渡邊浩一郎 (千葉県館山市)・近藤伸也 (宇都宮女子大学) 宇治田和 (ランドブレイン)		

総合防災						
		1限	2限	3限	4限	5限
2月28日	講座名	総合防災政策	被害抑止政策		災害対策本部体制 (演習)	
	講師名	岩田孝仁 (静岡大学)	池谷浩 (砂防・地すべり技術センター) 有井美由紀 (神戸市) 森隆行 (横浜市)		岩田孝仁 (静岡大学) 細貝和司 (新潟県) 元谷豊 (サイエンスクラフト)	
3月1日	講座名	リスク評価と対策への展開	応急活動政策		防災政策演習	全体討論
	講師名	下境敏広 (パスコ)	木村敬 (総務省) 目黒公郎 (東京大学)		岩田孝仁 (静岡大学)	岩田孝仁 (静岡大学)

(地域別)

富山						
		1限	2限	3限	4限	5限
10月20日	講座名	被災者支援の 枠組み	災害法体系と 防災計画	地域の災害特性	災害対応過程と態度を学ぶ	
	講師名	山本晋吾 (人と防災未来センター)	石田潤一・石野翔平 (内閣府)	栗田智己 (新潟地方気象台)	元谷豊 (サイエンスクラフト)	
10月21日	講座名	警報避難の枠組み	防災行政概要	交通確保・物資物流・ 広域応援の枠組み	自助・共助の 取り組み促進	全体討論
	講師名	吉松直貴 (内閣府)	林俊行 (内閣府)	松永正大(元全国物 流ネットワーク協会)	南部優子 (サイエンスクラフト)	渡邊弘毅 (サイエンスクラフト)

三重						
		1限	2限	3限	4限	5限
10月27日	講座名	防災行政概要	地域の災害特性	災害法体系と 防災計画	災害対応過程と態度を学ぶ	
	講師名	中村裕一郎 (内閣府)	大洲光知夫 (名古屋地方気象台)	石田潤一・狩谷彰宏 (内閣府)	竹本加良子 (サイエンスクラフト)	
10月28日	講座名	交通確保・物資物流・ 広域応援の枠組み	被災者支援の 枠組み	警報避難の枠組み	市町村 BCP の 概要	全体討論
	講師名	松永正大(元全国物 流ネットワーク協会)	曾我明裕 (内閣府)	吉松直貴 (内閣府)	大山直宏 (内閣府)	渡邊弘毅 (サイエンスクラフト)

北海道						
		1限	2限	3限	4限	5限
11月15日	講座名	防災行政概要	地域の災害特性	災害法体系と 防災計画	災害対応過程と態度を学ぶ	
	講師名	米津雅史 (内閣府)	志田直士 (札幌管区気象台)	石田潤一・大亀寛 (内閣府)	元谷豊 (サイエンスクラフト)	
11月16日	講座名	警報避難の枠組み	被災者支援の 枠組み	交通確保・物資物流・ 広域応援の枠組み	自助・共助の 取り組み促進	全体討論
	講師名	後藤祐也 (内閣府)	進藤敦彦 (内閣府)	松永正大(元全国物 流ネットワーク協会)	坂本浩之 (内閣府)	渡邊弘毅 (サイエンスクラフト)

山形						
		1限	2限	3限	4限	5限
11月24日	講座名	防災基礎総論	防災行政概要	地域の災害特性	災害法体系と 防災計画	防災基礎演習
	講師名	牛山素行 (静岡大学)	安邊英明 (内閣府)	加藤寿明 (仙台管区気象台)	井澤達哉 木村健太郎 (内閣府)	中石正一 (武揚堂)
11月25日	講座名	警報避難の枠組み	被災者支援の 枠組み	交通確保・物資物流・ 広域応援の枠組み	災害対応過程と態度を学ぶ	
	講師名	黒木拓也 (内閣府)	高相泰忠 (内閣府)	松永正大(元全国物 流ネットワーク協会)	竹本加良子 (サイエンスクラフト)	



岡山						
		1限	2限	3限	4限	5限
11月30日	講座名	防災行政概要	地域の災害特性	災害法体系と防災計画	災害対応過程と態度を学ぶ	
	講師名	林俊行 (内閣府)	井上達二 (岡山地方気象台)	三島梨加・小寺裕之 (内閣府)	元谷豊 (サイエンスクラフト)	
12月1日	講座名	警報避難の枠組み	被災者支援の枠組み	交通確保・物資物流・広域応援の枠組み	自助・共助の取り組み促進	全体討論
	講師名	後藤祐也 (内閣府)	山本晋吾 (人と防災未来センター)	松永正大 (元全国物流ネットワーク協会)	森脇淳二 (内閣府)	渡邊弘毅 (サイエンスクラフト)

高知						
		1限	2限	3限	4限	5限
12月7日	講座名	防災行政概要	地域の災害特性	災害法体系と防災計画	災害対応過程と態度を学ぶ	
	講師名	佐谷説子 (内閣府)	榎本淳一 (高知地方気象台)	三島梨加・前川篤 (内閣府)	元谷豊 (サイエンスクラフト)	
12月8日	講座名	警報避難の枠組み	被災者支援の枠組み	交通確保・物資物流・広域応援の枠組み	自助・共助の取り組み促進	全体討論
	講師名	山本晋吾 (人と防災未来センター)	佐藤知和 (内閣府)	松永正大 (元全国物流ネットワーク協会)	井場宏樹 (内閣府)	渡邊弘毅 (サイエンスクラフト)

長崎						
		1限	2限	3限	4限	5限
12月15日	講座名	防災行政概要	地域の災害特性	災害法体系と防災計画	災害対応過程と態度を学ぶ	
	講師名	須藤明裕 (内閣府)	杉本茂徳 (長崎地方気象台)	井澤達哉・大野大輔 (内閣府)	辻岡綾 (人と防災未来センター)	
12月16日	講座名	警報避難の枠組み	被災者支援の枠組み	交通確保・物資物流・広域応援の枠組み	自助・共助の取り組み促進	全体討論
	講師名	山下和樹 (内閣府)	園部重治 (内閣府)	松永正大 (元全国物流ネットワーク協会)	本多敏彦 (内閣府)	渡邊弘毅 (サイエンスクラフト)

和歌山						
		1限	2限	3限	4限	5限
1月12日	講座名	防災行政概要	地域の災害特性	災害法体系と防災計画	災害対応過程と態度を学ぶ	
	講師名	廣瀬昌由 (内閣府)	藤崎幹夫 (和歌山地方気象台)	三島梨加・辻本陽琢 (内閣府)	竹本加良子 (サイエンスクラフト)	
1月13日	講座名	警報避難の枠組み	被災者支援の枠組み	交通確保・物資物流・広域応援の枠組み	自助・共助の取り組み促進	全体討論
	講師名	多田直人 (内閣府)	石井洋之 (内閣府)	松永正大 (元全国物流ネットワーク協会)	田村豊一 (内閣府)	渡邊弘毅 (サイエンスクラフト)

宮崎						
		1限	2限	3限	4限	5限
1月19日	講座名	防災行政概要	地域の災害特性	災害法体系と 防災計画	災害対応過程と態度を学ぶ	
	講師名	池田泰雄 (内閣府)	図師哲己 (宮崎地方気象台)	石田潤一・狩谷彰宏 (内閣府)	元谷豊 (サイエンスクラフト)	
1月20日	講座名	警報避難の枠組み	被災者支援の 枠組み	交通確保・物資物流・ 広域応援の枠組み	自助・共助の 取り組み促進	全体討論
	講師名	黒木拓也 (内閣府)	山本晋吾 (人と防災未来センター)	松永正大 (元全国物 流ネットワーク協会)	児玉克敏 (内閣府)	牛山素行 (静岡大学)

(フォローアップ研修)

広島							
		1限	2限	3限	4限	5限	6限
3月7日	講座名	開講挨拶 / 事例説明	フィールドワーク及び災害事例の聞き取り				資料整理
	講師名	広島市	広島県 広島市	災害経験者1 山根 健 (自主防災会)	災害経験者2 坊 聡彦 (自治会)	災害経験者3 河本 秀明 (広島市)	受講者
3月8日	講座名	防災に関する 最近の動向	災害対応ワークショップ		閉講式	終了 / 現地解散	オプションツアー 被災地の自治体に おける取組
	講師名	柳迫 長三 (広島県自主防災 アドバイザー)	元谷豊 (サイエンスクラフト) 山本晋吾 (人と防災未来センター)		事務局		広島県



参考資料 9

センター刊行物

- (1) DRI 調査研究レポート (再掲)
 - ・ D R I 調査研究レポート Vol.36
「平成 28 年 4 月熊本地震における災害対応の現地支援に関する報告書」
 - ・ D R I 調査研究レポート Vol.37
「平成 28 年度 研究論文・報告集」
- (2) DRI 調査レポート (再掲)
 - ・ 平成 28 年熊本地震現地調査報告 (第 1 報) (No.45 2016 年 5 月)
 - ・ 平成 28 年熊本地震現地調査報告 (第 2 報) (No.46 2016 年 7 月)
 - ・ 平成 28 年台風第 10 号による被害と対応状況に関する現地調査報告 (No.47 2016 年 10 月)
 - ・ 平成 28 年鳥取県中部を震源とする地震の現地調査報告 (No.48 2016 年 10 月)
- (3) 資料室ニュース (Vol.60 ~ 62) (再掲)
- (4) その他
 - ・ 公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構ニュース Hem21 (Vol.57 ~ 62)
 - ・ 研究レター Hem21 Opinion
 - Vol.35 平成 28 年 5 月号 (山崎 登 上級研究員)
 - Vol.36 平成 28 年 7 月号 (金田 義行 上級研究員・牧 紀男 震災資料研究主幹)
 - Vol.37 平成 28 年 9 月号 (中川 一 上級研究員)
 - Vol.38 平成 28 年 11 月号 (立木 茂雄 上級研究員)
 - Vol.39 平成 29 年 1 月号 (福和 伸夫 上級研究員)
 - Vol.40 平成 29 年 3 月号 (河田 恵昭 センター長)